



長きにわたり会長として濟々豊を纏めて下さいました加藤会長(昭和25年卒)の、会長職を辞したいとの強いご意向を受け、幹事長を中心に2年程前から密かに新会長候補者を探してきておりました。

去る平成22年11月25日の本会幹事会におきまして、加藤会長自ら齊藤淳先輩(株式会社東京証券取引所 社長 昭和33年卒)を新会長にご推薦され、幹事会としましても満場一致で齊藤新会長を承認することとなりました。齊藤先輩は東証の現役の社長というお立場であり、以前、会長就任要請に対し固辞された経緯もあります。まさか現役中に新会長を受諾していただけるとは思っておりませんでしたので、受諾していただけるの一報が入ったときには感慨無量そして新生東京同窓会誕生の瞬間と思つた次第です。

藤先輩の意思転換に少なからず影響を与えていただいたと思われまます泉洋介先輩(昭和33年卒)にも改めて御礼申し上げます。加藤会長には本当に長く会長職を務めていただき感謝の念に耐えません。退任のご意思をお聞きしておりながら、長く引つ張つてしまいました。誠に申し訳ございませんでした。これからは齊藤新会長の下、役員一丸となって会の継続と繁栄に尽力していきたいと思っております。(脱稿後、東日本大地震により、東日本一円に未曾有の被害が発生してしまいました。被災された方々には心からお見舞い申し上げます。復旧には多大なご苦労があるかとは存じますが、我々も一丸となつて、この苦難を克服していきたいと思えます。その意味でも本年の東京同窓会が「元気を振るい」、盛会に終わることを望んで止みません。昭和59年卒業組、期待しています。)

郷原友和(昭和53年卒) 濟々豊東京同窓会事務局長

多士濟々閉塞を打ち破れ、翔べ!!

三 綱 領

正倫理明大義 重扉恥振元氣 歴知識進文明

昭和41年会責任編集

# 多士東京

No.41 2011 6/18

発行/濟々豊東京同窓会事務局 〒162-0822 東京都新宿区下宮比町2-18-705 TEL.03-3268-9525 FAX.03-3268-9520 平成23年6月5日印刷 平成23年6月10日発行 発行者/郷原 友和 振替/00190-1-68705

濟々豊東京同窓会の最新情報はインターネット・ホームページでどうぞ! <http://tokyo.seiseiko.jp/>

### もくじ

東京同窓会斉藤会長挨拶 「濟々豊東京同窓会会長を拜命して」	2~3	「濟々豊の精神を活かして」 S47 森 正晴	13
加藤前会長辞任挨拶 「濟々豊東京同窓会々長を辞任するにあたって」	4	「OB3年目の今」 H21 宮本 直輝	14
眞開賢長挨拶 「管理棟本館落成におもむ」	4	他地区同窓会報告	15~18
「気球に夢を乗せて」 高本 裕久	6	熊本同窓会 寺崎 温子	15
「山と私」 田中 淳	7	福岡同窓会 奥村 英行	16
「裁判員制度について」 本田 守弘	8	濟々豊関西の現在(いま) 駒崎 伸之	18
「当世大学雑感」 稲葉 敏夫	9	第三回OB会ゴルフコンペ大会 岡野 達郎	20~21
学年だより	11~15	「新賢舎訪問記」 林 力	22
「東京七夕会 二〇一〇年の経過報告」 S25 宮本 純男	11	「熊本へ戻ったものの」 有住 智博	22
「東京二十八年会報告」 S28 岩永 忠	12	事務局報告 郷原友和	24
「ゴルフコンペ百回目」 S34 坂本 敬一	12	編集後記 三池秀一	24



新賢舎

熊本城



昨年夏から岡野編集長のもと、5、6回にわたり編集会議を実施してきました。

原稿集めに関しては各々分担してそれに当たり、良き伝統と同窓生のつながりの有難さを身にしみて感じました。

早く御寄稿頂きました諸先輩同窓生の皆様には厚く御礼申し上げます。

また、キャッチフレーズを「多士濟々 閉塞を打ち破れ、翔べ!!」としました。

このフレーズは41年卒の女性陣の提案によるものです。新本館の完成と新しい歴史の始まり、一層の大発展を期待します。

また、東日本震災のなか、1日も早い復興への歩みと原発の安全の確立されんことを祈りつつ、自分の出来ることは義捐金の追加を考える事くらいかな・・・

ところで今一番安全と考えられる地域は故郷 熊本ではないでしょうか。

しかし220年ほど前「島原大変 肥後迷惑」という言葉に現わされる事実があります。

寛政4年(1792年)雲仙眉山崩壊による大津波の発生肥前肥後の両国で1万5千人の人命が失われたというものです。天草では対岸より流れついた溺死者を

「寄り人様」として丁寧に供養したと今に伝わります。 何処も安全とは言えませぬ・・・

余震の続くなか 合掌

三池秀一(昭和41年卒)

本号の編集長 岡野達郎

編集委員 林 力、

三池秀一



# 濟々齋東京同窓会会長を拜命して

平成二十三年一月二九日



東京同窓会長  
齊藤 惇  
(昭和33年卒)

昭和三十三年に黄壁城を後にして五十三年を経て、奇しくも再び濟々齋高校の先輩、後輩諸兄と校歌を歌う機会に恵まれました。

友人の牧師の話によれば、聖書には三つの愛がある、一番重要な愛は友情であり二番目が身内の愛、そして三番目がエロスの愛と書いてあるそうです。

最高の愛のシンボルである友情の愛を温め合う東京の同窓会会長を拜命する榮譽に恵まれたことを心から感謝したいと思います。

先人がよく「学生時代に最もやっておかねばならない

ことは友人を作ることである。何故なら社会に出てから出来る友人はどこかに打算が潜んでいるが学生時代はお互いに無垢な関係である。この時出来る友情こそは真の人間関係である」と言われていました。

所で、今からの日本はどのような国になると皆さんは考えておられますか。

正確に将来を語れるいくつかの現在の数字があります。先ず日本人は現在千兆円の借金を抱えていること、一方、人口構成は後十七年で二十八%が六五歳以上になり、三十七年で何と三十三%以上が六五歳以上になるということ、更にその人口そのものが一億二千七百万人で既に二〇〇五年にピークを打っており、わずか四十年後の二〇五〇年には八千八百四十万人位にまで減少を続けることが推定されていることなどです。この結果、現在の約六千

二百万人の労働人口は四千万人を切るでしょう。

これらの数字を基に想像される日本では大量の自動車を運転する人も減り、多くの人が老齢化の為、徒歩による公共交通機関を使っているでしょうし、大型家電製品が大量に消費されることもないでしょう。

今悩んでいる円高は逆に過剰な円安を心配しなければならなくなっているかも知れません。インフレは多分避けられず、国民の実質可処分所得は必ずしも豊かになっ  
ていないと思われ  
ます。

既にかんがりの確率で見えているこの将来像に対して我々は備えねばなりません。

先ず考えられることは、最早過剰な医療介護や社会保障は求めるべきではなく、むしろ将来の日本の健全性を保つ為に十五%以上の消費税も覚悟し、医療費や介護費用の自己負担率を引き上げる一方で教育水準の集中的向上や企業や政府による調査研究の為に多額な投資を遂行し、官民協力、勤勉努力型の国家に戻する必要があります。自国の市場規模が縮小していくので輸出政策は堅持する必要があります、その為にも国の扉を大きく開いて内外人

事交流や諸外国との親睦を阻害するようなことがあつて

はなりません。我々が心がけねばならないことは若き日の楽しい思い出がどんどん過去に押しやられてただ真つ暗闇が待っているだけなどという考えに陥らないことでしょう。

まず若者はこんな暗い日本の姿を想像してまるで老人の心境と同じ気分になってはいけません。

今騒がれるアジアの台頭は実は米国市場が二つできたような状態と考えられます。

欧米にとってかつて日本が飛躍した時に同じような心配があつたのでしようが結局は市場が拡大した効果は欧米も享受する結果となりました。

同様なことが将来の世界において考えられます。その意味では真に喜ぶべき現象ではないでしょうか。

我々はお互いに切磋琢磨して大きく国の扉を開き、自己鍛錬に励むべきなのでしょう。

皆様方と共に伝統ある濟々齋精神を高揚させて明日の日本の構築に参加したいものだと思います。どうかご支援ご指導賜りますようお願い申し上げます。



# 濟々齋東京同窓会々長を 辞任するにあたって

平成二十三年一月十六日



前会長  
**加藤 榮護**  
(昭和25年卒)

2002年から務めてきた会長職を辞することにした。前任の田島義博さんが学習院の院長を引き受けられる事となり、多忙を極めるからと云う話で、当時の幹事長の尾浦武昭君等の推挙を受けて、不肖小生が後を継ぐことになった。以来8年が経過し、今年是小生80歳を迎えることとなる。

幸い、後任を小生の8年後輩に当たる齊藤淳氏が引き受けて下さることになった。これは石原幹事長や、齊藤さんと同期

齊藤さんは今大変な激務の中にあつて会長職を引き受けて下さり感謝に堪えない。私事に亘るが、小生は10年前に脑梗塞に見舞われている。齊藤さんも今後特に健康に留意され、存分の御活躍をお祈りしたい。

念の下、129年の年輪を重ね、輝かしい歴史と伝統を積み重ねてまいりました。これも偏に、卒業生の方々のためまぬ御支援のお陰であります。ここに、改めて敬意を表しますとともに感謝を申し上げます。

さて、管理棟本館は、いつの時代も「濟々齋のシンボル」として存在してきました。その管理棟並びに校舎については、明治15年の私塾「同心学舎」に始まり、本館全焼や黄壁城再建など過去幾多の変遷を経て、一昨年の9月から昨年の7月までの、約10ヶ月に及ぶ建設期間を費やして、待望の管理棟本館が新築されました。新管理棟本館は歴史と伝統のある濟々齋らしさを表現するために、新しい中にも重厚で落ち着きと風格のあるキナ線の入った外観デザインとなつています。エレベーターの設置等を含め、障壁のない使いやすいユニバーサルデザインが導入され、室内も快適性が確保されることも明るい内部空間となつています。また、省エネルギーの観点から太陽光発電システムの導入など環境への配慮も図られています。

管理棟落成記念式典では、生徒たちに母の歴史を辿り、先輩方が残してくれた伝

昨年は、小生等25年卒業生にとって濟々齋卒業後60年を迎え、10月に熊本で記念の会合をもつた。25年卒前後の4回生は中学濟々齋に入学し、新制高校に編入となったので、濟々齋に6年間通つた。10月12日、濟々齋玄関前に50人の集合予定が、当日までにキャンセル続出。出席者は32名となった。校長先生の挨拶を受け、校舎の施設を視察。

終わって、貸切バスで天草へ、一泊。翌日は船で遊覧組とゴルフ組に分かれて楽しんだ。驚いたことに、校長も教頭も濟々齋出身では無い。濟々齋に赴任したての某幹部先生は三綱領の読み方を知らなかったと云う。

8年間の同窓会会長の期間、小生の挨拶は三綱領に終始している。我が家には多士会館で過去に買い求めた三綱領の額を掛けている。佐々友房先生の達筆、気持良い達筆、清々しい達筆を眺め、日々の反省材料になっている。東京の高校にはこんな立派な綱領を持つていない学校はないようだ。

最近の日本の将来を思うとき、正に危機感を覚える。現役世代の奮起を望むや切なるものがある。日本が日露戦争の勝利に湧き、一等国と

統を継承しつつ、新たな創造と挑戦をしてほしいと考えて、パネルディスカッションを企画しました。テーマは「濟々齋とは」「サブテーマとして「継承と新たな創造に向けて」を掲げました。コーディネーターとして熊本日日新聞社の越地真一郎様をお迎えし、生徒は各学年から2名ずつ計6名の代表を選び、アドバイザーとしてベネッセコーポレーションの中川雅文様、本齋職員の進路指導主事が参加し合計9名で、事前に取ったアンケート結果をもとに約1時間の討論(意見発表)を繰り広げました。この機会を通して自分をきちんと見つめ、自分自身の心の在り方を高め、磨き続けようとする姿勢を高揚することにつながったものと確信しています。

ところで、卒業式前日の2月28日には第129回の創立記念式典を挙行し、その中で、株式会社 雇用促進事業会の代表取締役社長の島田俊郎様に御講演いただきました。島田様御自身の卒業式にまつわる思い出を織り込みながら希望や願望の大切さや、地域を豊かにしたいという島田様の強い思いをお聞きし、改めて三綱領や齋歌の意味を考え直す良い機会となりました。

しての国際的地位にのし上がった末に、昭和20年の敗戦至るまでの経過は我々に多くの教訓を与えてくれている。

成功に酔い痴れた末の「奢り」が世の中を破滅に導く。失敗は成功へのチャンスと感ずるべきと思う。今日本は、不景気、人口減少、開発途上国の追い上げに将来を不安視する人が多い。

成功の絶頂にある時が一番の危機であり、危機を感じた時がチャンスであることを、忘れないでいたいと思う。

今年も3月1日には、濟々齋卒業式で元気な若者が巣立っていく。若者よ頑張れ！

## 管理棟本館落成におもう



熊本県立  
濟々齋高等学校校長  
**真開 純洋**

昨年10月の管理棟落成記念式典では同窓会の役員の方々をはじめ多くの御来賓の御臨席を賜り、盛大に挙行することが出来ました。本齋は創立以来、今日まで終始一貫変わらない建学の精神「三綱領」の教育理

3月1日の卒業式では、熊本県知事の蒲島郁夫様、東京同窓会会長の加藤榮護様、同副会長の林田紀久男様、同幹事長の石原純様をはじめ多数の御来賓の御臨席を賜り、厳粛なる式典が行われました。式の最後には、初めての女性応援団長のリードのもと、三綱領にある「元気を振るう」にふさわしい立派な三綱領唱和、そして齋歌を高らかに歌い上げて407名の卒業生が本齋を巣立っていきました。

これまで生徒たちには先人の功績を讃えるところにも「伝統校濟々齋に学べる」有り難さを忘れることなく、同窓生の方々が「今の濟々齋生」を語るに恥じることがないような高校生活を送るよう指導してきました。これからも自分の夢実現に向け、日々の勉学や部活動に情熱を燃やし、人格・識見を磨き、常に過去の自分を乗り越えていく濟々齋生の育成に努力していきたいと思つていきます。

最後に、物心両面から多大な御支援をいただいております東京同窓会の方々に厚く御礼申し上げます。

(※編集部注記 眞開氏は今年3月末退任され中西真也新齋長が赴任されました。)



# 気球に夢を乗せて

高本裕久（昭和41年卒）



まだ飛行されたことはないが、美しく楽しいフライトが期待できる。と想像できる場所はまだたくさん残されています。

そのような場所のひとつ、裏磐梯地区での昨年2月13日（土）朝の飛行記録です。松原湖東岸を離陸、小野川湖・秋元湖と湖面に沿って通過、安達太良山頂を越えて中通の東北道二本松市古家、東北道近くの林に囲まれた畑地に着陸しました。同時に飛行してくれたのは群馬BC（赤木風・P奥野。航跡図等を参照ください）です。計画段階での飛行所要時間は、湖地区で15分、高度をとり山を越えるのに45分、着陸15分の計75分（立案時参考にしたのは水戸・高田のウインドプロファイルのデータ）。実飛行時間は離陸07:05、着陸08:30、85分間でした。数年前よりロケハンを繰り返して、今回NOTAMのMAX高度は15,000ft。良好な視程と想定した風向速を得るため、現地にて数回待機。雪景色と温泉、帰路に

は太平洋に沿った漁港での魚料理があり、苦になることはありませんでした。我々を悩ませたのは、雲底高度（山頂が視認できるか）、山越えのおり遭遇することになる山岳波、着陸地の積雪状況（回収車両が進入できる道がどれほどあるのか）でした。飛行の前夜、日付が変わるころに星が瞬きだし、雲の心配は消え、山岳波の種類や強度はこの一帯をよく飛行するグライダーパイロットに教えを請いイメージをつくりました（7,000ftで安達太良山頂を越えた直後に6ktで800ft持ち上げられた）。設定より10分間飛行時間が伸びたのは、着陸予定地の付近は区画が狭く、開いている道路も少なく、選択に時間を要したためです。そのせいかバスケケットが着地する前に回収車が到着しました。昔話に少しだけおつきあいください。私と山岳飛行との出会いは、フレッド・ドルダー氏の主催する飛行会で、正式名称は「INTERNATIONAL HIGH ALPINE DOLDER BALLOONING WEEK」。82年6月末、スイス・ミューレンを離陸しオーストリア・チロールまでの400kmを最高高度24,000ftで5時間をかけて飛行したときのことです。

最終的に岩山の中腹に着陸。宿泊施設の



裏磐梯檜原湖

# 山と私

田中淳（昭和49年卒）



〈きつかけ〉は36歳の時、会社の後輩に連れて行ってもらった北アルプス・立山のテント泊登山でした。その年は雪渓も大量に残っており緑と白の雄大なコントラストに圧倒されました。また真夏だというのにテント場の雷鳥平では若者等が雪渓でスキーのポール練習をしていて驚いたものです。夜は放射冷却で冷え込み、服全部着ても寒くて眠れず新聞紙をクシャクシャにして広げたものをシュラフと服の間に詰め込みやっと眠れたのを今でも鮮明に覚えています。それで山の魅力に取り付かれ、すぐさま近くの山岳会に入りました。以来20年、春は残雪と新緑、夏は3,000m級の高峰の縦走とシャワークライム（沢登り）、秋は紅葉と温泉登山、冬は雪原の銀世界縦走と四季折々を楽しんでいます。

〈山の会に入会しておどろいたこと〉登山の前夜泊、どこでも寝るんですね山ヤは、車で行く場合は登山口近くの駐車場、SA、

道の駅、公園、無人駅。真夜中にどこでもテントです。そしてどんな遅くて着いても乾杯！ 2、3時間寝て一般人が来る前に撤収です。最初びっくりしていた若い女性陣も1、2度経験すれば慣れたもの、人間はたくましいです。こういった非日常的な行動も一つの魅力かもしれません。

次に山での食生活。基本的に山行はテント泊で自炊になります。女性食事が一番だといつぎつぎとテントでツマミが出てびっくり。例えば去年末の八ヶ岳冬合宿のメニュー…キウウリの塩昆布もみ、自家栽培里芋のそぼろあんかけ、蛸と野菜のマリネ、ウインナーポイル、漬物、メインデッシュはその場で作る手作り餃子と鶏肉だんごスープetc、まるで居酒屋なみ。宴会は何時果てるとも無く続くことになりました。



（私の山行スタイル）山の会自体は技術をもった本格的メンバーも大勢いる登攀志向の正統派なんです。私が私にはもった景色と酒と温泉のある縦走や沢登り主体。自分の技術と嗜好にあった登山をしています。

〈昨今の山ブーム〉団塊世代の百名山ブームとファッション化した山ガールブームは凄いですね。百名山と名のつく山のピークシーズンは山小屋もテント場もまるで都会の雑踏並みの混雑。びっしり詰め込まれたテント場は隣との間が10センチなんてこともザラ。夕日を眺めてゆっくり乾杯なんて状況ではありません。宿はひどい時は一つの布団に2人、3人と詰め込まれます。混雑が大嫌いな旧人類の山は最近ではピークシーズンの百名山を外したり、なるべく一般人が少ない渋いコースを選んで登っています。

### 裁判員制度について

本田守弘（昭和41年卒）



1 濟々饗東京同窓会の皆様、すっかりご無沙汰いたしております。昭和41年卒業の本田守弘です。平成20年7月に広島地

廷では、これらの法律の専門家による専門用語が飛び交い、傍聴している人にも、また裁かれていた被告人にも分かりにくいものになってしまいう傾向がありました。それに、長期化する裁判も問題でした。小泉元総理大臣がこのような長期化する裁判を「思い出の事件を裁く最高裁」と揶揄したことをご存知の方もいることと思います。さらに、殺人や交通事故による死亡事故などで刑が軽すぎるのではないかと感じたことがある人もいます。裁判官がこれまでの類似事例やどのような事情を考慮すべきかという専門的な観点から、他事件との均衡も考慮して量刑を決めることは、それなりに理由のあることですが、他方、そのために硬直したものになる危険を孕みます。

4 そこで、これまでの職業裁判官による裁判の良いところは良いところで残し、そこに一般国民の健全な社会常識を反映させることによって、よりよい裁判を実現しようという考えの下に導入されたのが裁判員制度なのです。また、裁判員が参加する裁判では、これまでのように専門家だけにしか分からないような難しい裁判は出来ません。法律に素人の一般国民にも分かるよう

方検察庁検事正を最後に31年余にわたる検事生活に終止符を打ち、現在は、港区麻布十番にある麻布公証役場で公証人をする傍ら青山学院大学法科大学院で刑事訴訟法の講座を持ち将来の実務法曹の養成に携わっています。

検事時代は、仕事の忙しさに加えて転勤が重なり、濟々饗の同窓会にもほとんど顔を出す機会がなく失礼の連続でしたが、今は、時間的にも多少余裕が生まれ、今後は同窓会にも積極的に参加したいと思っています。どうぞよろしく願います。

2 この度、編集部の方から「裁判員制度」についての寄稿の依頼を受け、「多士東京」に拙文を掲載することができていることを心からうれしく思っております。

ご存知のように、裁判員制度は、平成21年5月21日から実施に移され、約3年を経過しました。

国民が刑事裁判に参加する制度としては、陪審制度があることは皆さんもご存知のことと思います。ヘンリー・フォンドが主演した有名な映画「12人の怒れる男」をご覧になった方も少なくないと思いますし、テレビでも「弁護士プレストン」などアメリカの刑事裁判ものが数多く放送されています。

な裁判にしないと裁判員に事件を理解してもらうことはできません。わかりやすい裁判を実現する必要があります。さらに、裁判員は、他に仕事を持ち、生活を持っている人たちですから、長期間にわたって裁判に縛り付けておくことは出来ません。そこで、争点を明らかにしないままならだらと審理を続ける訳にはいきませんので、準備手続を設けて、争点を整理し、審理日程もあらかじめ決めて、法廷では、その争点を中心に充実した審理することによって短い時間で裁判を終わることが出来るようにしてあります。

裁判員制度は、裁判を分かりやすくし、集中した審理によって長期化を防ぎ、かつ、裁判に国民の健全な社会常識を反映させることによって、国民に信頼されるよりよい刑事裁判を実現するための制度なのです。

5 ただ、皆さんの中には、人を裁くなんてことが素人出来るのかといった疑問や不安を覚える方もいると思います。しかし、専門的な判断が必要な法律問題については裁判官が判断しますし、裁判員は専ら事実認定とどれくらいの刑にするかという量刑について裁判官と一緒に判断することになっています。証拠によって過去の事実を認

した。我が国でも、戦前の一時期、この陪審制度が行われたことがありますが、広く根付くことなく、現在、この陪審法は停止されたままとなっております（停止されているだけです）。法律自体はまだ生きています。もともと、陪審制度は、国民の中から選ばれた陪審員が、陪審員のみで事実の認定、つまり有罪か無罪かを定める制度ですが、裁判員制度は、国民の中から選ばれた裁判員が、裁判官とともに事実認定ばかりでなくどのくらいの刑にするかという量刑も決める点で陪審制度とは異なります。

3 戦後、新しい憲法の下で刑事訴訟法も新しく制定されました。その後、裁判は、ずっと司法試験に合格した後、司法修習を終了した者の中から任命される職業裁判官によって構成される裁判所で裁判が行われてきました。我が国の刑事裁判は、世界的に見ても極めて適正に運営されてきたといえます。それなのになぜ、一般国民の参加が求められることになったのでしょうか。

我が国では、裁判官だけでなく、検察官も弁護士も、原則として裁判官と同じく司法試験に合格し、司法修習を終えた者にその資格が与えられます。そのため刑事の法

定するということは、我々が日常生活の中でもやっていることで、専門的な知識がないと出来ないというものではありませんし、量刑についても裁判所から資料が示され、また、検察官、弁護士がそれぞれの立場から根拠を示して主張します。裁判員の皆さんは、それらを参考にして裁判官と一緒に考えることになりましたので、そんなに心配する必要はありません。大切なのは、皆さんの健全な社会常識を刑事裁判に反映させることにあるのです。

6 この拙い一文が皆さんの裁判員制度に対する理解の一助になれば幸いです。もし、皆さんの許に裁判所から裁判員候補者の通知が来たら、ぜひ、積極的に参加して頂きたいと思えます。

### 当世大学雑感

稲葉敏夫（昭和41年卒）



拙稿を認めている最中に、ニュースが飛び込んできた。京都大学の二次試験において携帯電話を利用したと思われる不正な事態が発覚した。京都大学は、入試問題



が試験時間中にインターネットの質問掲示板に投稿されたことが偽計業務妨害にあたる疑いがあるとして京都府警川端署へ被害届を出すことを明らかにした。同志社大学、立教大学、筆者の勤務大学の早稲田大学でも同様な実態が生じたと報道されている。所属している学部は違うものものとても他人ごとではない。

試験での不正行為は昔からあった。カンニングペーパーを使ったり、他人の答案用紙を覗き見たり、最近では辞書機能の付いた機器を使ったりと様々である。今回は携帯を使った不正である。カンニングペーパーの使用のような古典的な不正行為から携帯などを使った不正が起らないよう各大学は手立てをとっているが、防ぎえなかったことになる。ただ、今回の不正行為のこれまでのそれとの違いは、携帯という新たな道具を用いたというだけではないように思える。これまでは不正な手段で入学したいとの動機からであったであろう。ところが、ネット上に公開するというやり方からすると、不正な手段で入学を図るというよりも、それ以外の意図がありそうである。ところで、待たなしの少子高齢社会の到来、グローバル化の進展、新興

# 学年だより

## 東京七夕会（濟々堂二五年卒東京同窓会） 二〇一〇年の経過報告

世話人 宮本純男（昭和25年卒）

二〇一〇年の東京七夕会は、四月九日、第二金曜に、従来通りの西五反田、簡易保険会館（ゆうぼうと）にて、午後一時から開催されました。

会計年度は、東京七夕会開催の日から、次期開催の前日までとしています。

東京七夕会開催の日に会計報告と経過報告を行い、参加者に新名簿、その他を渡し、不参加の会員には、それ等と年会費納金用の振込用紙と当日撮った参加者全員のスナップを郵送しています。

二〇一〇年度の年会費（上納金）は、四五名分で、東京同窓会事務局に納金します。

深謝!! 熊本同窓会への学年単位の上納金、二万円については、二〇〇八年より中止になっています。

国の台頭などの事態に直面して、日本も変わらなければならぬ、改革を避けて通れない、改革せざるを得ないとはよく言われている。「改革」は大学についても昨今盛んに言われている。社会の変化につれ大学も変わらざるを得ない。一般社会とは途絶した孤高の存在たる「象牙の塔」という言い方もやがては死語となるかもしれない。

多くの大学で新しい学部を作ったり、従来の学部を改組して新たな学部名にしたり、組織を変えたりしている。新設のいくつかの学部名を挙げれば、現代ライフ学部、キャリア実践学部、こども心理学部、次世代教育学部、環境ツーリズム学部など、従来とは違う学部名も増えている。学部、学科名で最近よく見られるのは、「国際」、「環境」、あるいは「情報」を冠した学部、学科名である。これらうち二つを組み合わせるだろうか。これらうち三つすべてを使用した学部もある。さすがに3つすべてを使用した学部は今のところないようであるが、そのうち出てくるかもしれない。従来の学部名や学科名から、そこに入学すればおおよそ何を学ぶことになるか、ある程度想像できた。勿論、名称と内容・実質が合致していたかと言え、必ずしもそうではなく、改革が叫ばれる理由の一端にはそこら辺の

さて、簡単に二〇一〇年中の経過報告を行います。

- ★一月二三日。恒例事務局主催、新年会、銀座、並木通、三笠会館、出席者三名（甲斐邦朗、加藤栄護、宮本純男）藤田八郎先生、ご出席で乾杯の音頭を、とられる。
- ★四月九日。東京七夕会、西五反田、ゆうぼうと、出席人員二〇名で、会員のみ、

昨年比べて淋しい感じでした。乾杯の音頭は、久しぶりに参加された高木久五郎君に、お願いしました。締め饗歌斉



事情も関係しているであろう。

大学も構造不況業種の一つである。少子化にもかかわらず、大学、学部は増え続けてきた。不思議な産業である。進学率の上昇で進学者数が増えたとは言え、他方で「全入時代」とも言われ、定員割れや赤字財政に苦しむ大学が多々あるのも事実である。大学の統廃合も避けざるを得ないであろう。教育機関は、企業と異なり営利組織ではないと言われるものの、採算を全く度外視していいものでもない。

「改革」の話に戻ると、年齢層により「改革」に対する意識の違い、温度差がある。企業よりも定年が遅いのが多い大学であるが、例えば60歳を超えた教員は「改革」に対して慎重派が多いかもしれない。あと少ししかないのに今更改革で環境が激変するのを嫌う。それに対して、若手の教員は、このままでは大学は立ちいかないかもしれない、我々はこれから先がまだ長い、改革は是非ともしなければならぬ。このような傾向は大学に限らないであろう。世代間の考え方・意識の違いは、どちらが正しいとは言い難いことも多い。思いつくままに雑感として記したこと、ご容赦願います。

唱、万歳三唱は、世話人の宮本が行う。

- ★五月一日（土）濟々堂東京同窓会総会。私学会館、五八年卒実行委、出席者は四名（加藤栄護、中村明、松沢賢吉夫妻、宮本純男）当日、斉藤淳さん（三三年卒）の講演の企画があり、多数参加し、その後、懇親会に這入り、乾杯の音頭は藤田八郎先生でした。
- ★一〇月一〜二三日、卒後六〇周年記念合同々窓会、熊本天草、亀屋ホテル、華椿の間、三三名参加中、東京七夕会から一二名参加、（大内輝昭、甲斐邦朗、加藤栄護、上妻哲生、高木久五郎、野口雅章、橋本正文、本田健治、松尾準雄、村上浩、米良敬、渡辺恒人）でした。

最初の参加申し込み者数は四七名でしたが、だんだん少なくなってきました。一〇月のこの時期には東京七夕会、ゴルフコンペが計画されるのですが、本年は合同々窓会に合流する事になりました。

- ★十一月五日、熊本県人会、後楽園ドームホテル、地下一F、天空の間、出席者は六名（加藤栄護、中村明、安田昌資、米村啓介、渡辺忠士、宮本純男）
- ★イベント…春の叙勲、児島昭次

★住所変更…徳永行雄

★永眠…右田健次郎(三月?)岡田正道(七月二日)加藤順久(七月五日)天津八十二(八月二日)相沢晃(八月三〇日)。本年の猛暑は厳しかったですネ!! 祈、冥福!!

★幹事会…三月二四日。七月七日。一月二五日。

### 東京二十八年会報告

岩永 忠(昭和28年卒)

★忘年会(写真)

十二月五日(日)十二時より、昨年同様表参道のNHK青山荘に二十名ほどが出席して開催。藤田先生や東京同窓会から尾浦元副会長にも御出席願った。

欠席者は所用の者もあるが、病欠が目立つ。藤田先生から健康の秘訣等を伺い大変参考になりました。

★その他

熊本二十八年会は五月三十日に阿蘇に集合、東京等からも多数の参加があり懇親会の後ゴルフなどで喜寿を祝った。

銘打ち、熊本で大同窓会を開催した。全国各地から一九五人も参集して、大盛況の同窓会であった。

濟々巒三四会の全員が今でも自慢し、誇りに思っていることは、昭和三十三年春の選抜高校野球大会・甲子園で全国優勝した時の主力メンバーを同級生に持っていることである。この時は一回戦から決勝戦までの全五試合を九人(うち二人は当時一年生の35年卒)だけで戦い抜き、あの王貞治投手を擁する早稲田実業、同郷の熊本工業を準々決勝、準決勝で敗り、そして決勝戦で中京商業(現中京大中京)を敗って堂々優勝を遂げたのである。

東京三四会でも自慢にしているものがかいっつかある。一つは先にも触れたが、東京同窓会総会において、その年の幹事学年を除いて出席者数のトップが二十年以上も続いたことと、東京同窓会の年会費の納入者数が常に二位(一位は25年卒で、これは一度も抜けなかった)を続けていることである。そしてもう一つ、これが一番の自慢と言っていることである。ゴルフコンペを長く続けていることである。

東京三四会のゴルフコンペは、会の名称



ゴルフコンペ百回目に期待 坂本 敬一(昭和34年卒)



二〇一〇月十八日、東京三四会の忘年会が銀座「桃花源」にて行われた。多い時は三十数名の参加者があったが、この日は二十一名にとどまったものの、七年連続でご参加いただいている、恩師藤田八郎先生をお迎えして、34年卒の同級生一同が飲んで食べてしゃべって、

を濟々巒34年卒と「年にせいぜい三、四回やろう」という意味をかけて「濟々三四会」と名付けて、昭和五十四年十一月の相模湖カントリーでの会を第一回目としている。それ以前にも一組か二組で何回かやっていたが、それから三十一年、二〇一〇年十二月で九十七回目を終えた。その間、ゴルフ場が延べ六〇コース、参加者は過去約五〇人(うち九人死亡、熊本他地方転出者九人)、参加人員は延べ一三七八人にのぼる。

二〇一一年三月に九十八回目を予定しているが、秋には待望の一〇〇回目を迎える。八十四前後の頃から、一〇〇回目の時何人残っているだろうなどと話していたものだが、幸か不幸か、平成十五年からは確実に年四回実施しており、毎回四組以上の参加者で、昔よりむしろ盛会となっているくらいである。

記念の百回目には、これまで一回でも参加したことのある者は出場資格ありとして、地方在住の者にも多く参加を呼びかけ、大々的な記念大会にしようと、今、東京三四会ゴルフファータちは、大いに期待しているところである。

和氣薫々と楽しい一時を過ごした。

東京三四会では、この忘年会と東京同窓会総会後の二次会として年二回集まることにしている。総会の出席者数は二、三年前まで常に学年トップを誇っていたが、このところやや低迷しているのが寂しい。そのほか、これは後にも触れるけれど、ゴルフコンペを年に四回やっている。また、四〇八人くらいの飲み会やゴルフはしょっちゅうである。

そんな三四会であるが、二〇〇九年三月には、濟々巒卒業五十周年記念という事で、「碧落仰げば50年」と



### 濟々巒の精神を活かして

学年幹事 森 正晴(昭和47年卒)



◇昭和47年卒(東京討入会)は、平成22年11月13日(土)に恒例の懇親会の一つとして、「忠臣蔵史跡めぐりと宴会」を実施しました。東京討入会とは、卒業の昭和47年と忠臣蔵の47士を結びつけて名づけたものですが、その名に関連して、両国の吉良上野介屋敷跡や高輪の泉岳寺と肥後熊本城主細川綱利下屋敷跡に行き、日本人

が好む歴史物語を偲んで来ました。また、その後には熊本出身の方が経営する居酒屋チェーンの渋谷店において、楽しく賑やかに





に宴会を開催しました(写真)。

◇私達はあと数年で還暦を迎える年になりましたが、還暦の年には、濟々鬘時代の修学旅行のコースを辿る旅行を企画しています。大阪万国博覧会開催跡地や京都・奈良の寺を訪れ、修学旅行時の思い出、高度経済成長時代からゼロ経済成長時代に至る40数年間の時の流れ、さらに、これからの時代を共に生きていくことについて、旅行を通じて語り合いたいと思っています。

◇今日、某大手企業の経営者が繰返し発信している行動原則に、「インテグリティ」があります。遵法精神と倫理観を貫いて仕事を完成させよ」と言っているのだと捉えています。ビジネスの世界で、経営や財務の健全性と倫理観を強調しなければならぬ時代です。これには様々な背景や原因があるとありますが、濟々鬘同窓の皆さんは、あえてこの「インテグリティ」を意識しなくても、『正倫理』で始まる三綱領の精神を継承していると考えます。また、失業率5%超、自殺者毎年3万人超、高齢者(65歳以上)一人暮らしの世帯数450万超など不安の多い日本の社会となっていますが、まさに鬘歌の三番にある「仁愛」が不可欠であり、皆が

慈しみの心を現すことが大事だと思います。

昨年の暮れから伊達直人の名前で、児童養護施設にランドセルを寄付するタイガーマスク現象が起きていますが、このような行為は、伝統的に日本人の心の根底にあるものから来ているものと信じます。聖徳太子の思想の根幹をなす一つの伝統的仏教経典においては、「是善男子。善女人。入如来室。著如来衣。坐如来座。一切衆生中。大慈悲心是。如来衣者。柔和忍辱心是。如来座者。一切法空是。」と、慈悲心(プラス柔和忍耐と空の理解)を説いています。

◇濟々鬘同窓の皆さんは、三綱領や鬘歌の精神をしっかり抱き、きずなを大切に生きて行くことを願います。昭和47年卒(東京討入会)は、これからも固く連帯し、高齢者と呼ばれる頃には、私達が考える「世の中の役に立つこと」を「廉恥を重んじ元気を振るって」実行することを目指したいと思っています。



欠かせない飲み仲間だ。

一方で、新たな出会いがあった。濟々鬘東京同窓会だ。世代を越えてたくさん先輩方が、新人である自分たちを快く迎えてくださった。さまざま分野で活躍されている先輩方との交流は、将来やりたいことも決まっていな自分にとって貴重な刺激になっている。祖父の同級生という大先輩もいらっしやっした。「君のおじいちゃんにはよくいじめられたもんだよ。」と笑って言われる先輩に、そのときだけは本当に困ったが、親身になって当時の話をしてくださった。学年幹事という役もあり、会には積極的に参加しているが、いまだに先輩方を前にすると緊張する。「卒業してからの長い濟々鬘、高校時代からよく聞いていたフレーズの意味がようやくわかってきた気がする。

昨年の8月、熊本に帰省した際に濟々鬘を訪れた。正門に着くと、目の前には4階建ての大きな新校舎があった。高校時代お世話になった旧校舎と同じく、黄色のラインがしっかりと刻まれていた。この校舎がこれから先、何千何万という濟々鬘生を生き、世に送り出していくのだろう。卒業してもなお、自分は濟々鬘に支えられ成長してい

### OB3年目の今

明治大学 宮本直輝 平成21年卒



濟々鬘を卒業して2年が過ぎた。大学生生活はあつという間だと聞いていたが、あまりに早い。今年 は大学3年生。冬からは就職活動が始まる といえは親もびっくりだろう。だれより自分 がびっくりしている。そういえばハタチ になった。ハタチになれば、もの見方や価値 観なるものが変わるのかと思っていたが、 実際は髭の伸びが早くなったくらいで、な んらこれまでと変わらない。

濟々鬘に入学したのは今からちょうど5 年前。キナセンの入った学ラン、祖父の母校。 憧れだけで濟々鬘を志望したが、合格する ために必死で勉強した。入学して最初にき いた濟々鬘校歌斉唱と三綱領唱和は、それ までの人生で経験したことのないほどの衝 撃で、濟々鬘に入ったことを実感した。

入学後は中学に続きハンドボール部に入 部した。「勉強、部活、遊びの両立」。理想の高 校生活は理想に終わり、部活漬けの毎日を

る。この先の人生どうなるか全くわからないが、この支えをエネルギーに、しっかりと 大人の道を歩んでいきたい。OB3年目の 今、私はそう思っている。

### 他地区同窓会報告

#### 熊本同窓会

於 熊本全日空ホテルニュースカイ  
平成22年5月21日(金)  
寺崎温子 昭和41年卒



平成22年度の大同窓会 (総会および懇親会)は例 年通り5月21日に盛大に 行われました。まず、午後

5時30分より総会が行われ、岩永同窓会会 長を議長にし、平成21年度事業活動報告、平 成22年度の活動案、収支予算などが、満場一 致で承認されました。この総会は、いつも参 加者が少なく、誰でも参加できますのでも う少したくさんの方々に参加していただき たいと思いました。その後法人化する多士 会館についての説明などもありました。

懇親会は、ホテルニュースカイ2階の玉





乾杯の発声ステージに立つ平成22年卒業生と最年長出席の昭和11年卒の高木正男さん、富長清さん、城武信さん

樹の間で、約950人が参加し行われました。この中には、今年平成22年に卒業した、最も若い卒業生50名から、昭和11年に卒業された90歳を越す大先輩3名もおられました。ヤングゲストとオールデストが壇上に一緒に上がり、乾杯の音頭を最高齢の昭和11年卒の城さんがとられました。それに先立ち、担当学年の平成元年卒の高野正太実行委員長が手話で挨拶されました。平成元年卒といえば、誰でも知っている「くりーむしちゅー」がいます。彼らのビデオレターを鑑賞しながらの懇親会でした。最後はいつも

校歌と万歳三唱です。校歌は本当は1番から5番まで、全部歌うものらしいですが、いつも2番位までしか歌えず歌詞を見ながらの校歌斉唱でした。

私たちも懇親会の担当をしたことがありますが、この頃は女子も増えたせいとか、託児所なども設けてあり、少しずつの進歩を感じております。しかし、マンネリのところもあり、それぞれに工夫されることを期待しております。

今年度は本校の新しい管理棟（我々と同じ41年卒の古川さん設計）も新しく出来上がりました。是非一度見に行かせて下さいませ。



る総会に膨れ上がりました。来年は濟々饗創立130周年、福岡同窓会も55周年の節目を迎えますので、300名動員を目指して役員・学年実行委員ともども大いに張り切っております。

福岡同窓会では3〜4年前から、会則の改正、役員構成の見直し、3委員会（総務・組織・広報）の設置、学年幹事の役割の明確化などを行うとともに、広報誌の発行、ホームページの立ち上げなど、これまで手付かずだった活動を強化してきました。

実は、3年前の母饗の卒業式前夜の懇親会で東京同窓会事務局長の郷原友和氏と向い合わせの席となり、その折に東京同窓会の活動状況を詳しくお聞きしましたが、これがきっかけとなりました。特に、広報誌の創刊やホームページの立ち上げでは随分参考にさせていただきましたので、紙面をお借りして改めてお礼を申し上げます。

これら一連の改革以降、まず学年幹事の働き掛けで同期会が動き始めました。昭和60年〜63年卒（昭和末期卒）の卒業生たちは『昭和真つ黄会』を立ち上げました。平成卒は平成元年の卒業生たちが中心となり『平成の会』を、福岡の大学に通う現役学生たち

### 福岡同窓会

広報委員長 **奥村英行**（昭和41年卒）



九州新幹線全線開通の拠点として増改築工事真っ只中の博多駅に、11月6日早朝、24名の濟々饗

大好き人間が参集しました。これから「濟々饗のルーツと新本館を訪ねる『温故知新ツアー』」に参加する福岡同窓会会員の面々です。

母饗の玄関前で教頭先生のお出迎えを受け、大恐縮の体で新本館と歴史資料館を隈なく見学し、多士会館で片岡正實先生（H4〜H14勤務）から日露戦争と濟々饗との関わりについて講義を受け、熊本城の「本丸御殿、昭君の間」を見学した後、若き日の佐々友房先生が参戦された田原坂で往時を偲び、濟々饗漬けの一日を堪能しました。

東京同窓会の皆様、こんにちは。今回、福岡同窓会の近況をご報告できる機会を与えていただきありがとうございます。

福岡同窓会は第30回選抜高校野球大会優勝に沸き立つ昭和33年にスタートしました

は『福岡学生会』を立ち上げました。まだまだだよちよち歩きの間段階ですが、福岡の同窓会活動は昭和60年代以降の若い世代にバトンが引き継がれようとしています。

福岡市は消費経済都市であり、支店経済の街として発展してきました。特に平成に入りから、アジアの玄関口として飛躍的に発展し、政令指定都市としての基盤整備も着々と進んでいます。その福岡市が今大きく変わろうとしています。3月に九州新幹線が博多駅から鹿児島駅まで全線開通し、博多駅周辺は阪急百貨店の進出と併せて一大ショッピングモールを形成しつつあります。福岡市では天神地区と博多駅地区との間で、熾烈な第4次流通戦争が始まろうとしています。

また、博多・熊本間が40分で結ばれ、鹿児島へも80分で行くことができるようになります。以前から九州はひとつという掛け声がありましたが、時間的な距離ではいよいよ現実のものとなりつつあります。そのような中、福岡同窓会で語り合っているのは、熊本と福岡が一致協力してリーダーシップを発揮し、九州のポテンシャルを高め



ので、今年で54年目を迎えます。昨年の福岡同窓会総会はホテルニューオータニ博多で開催しましたが、過去最高の250名を超える参加者で、盛大な懇親の宴となりました。7〜8年前まで1000名を切るような動員でじり貧状態だったのを、諸先輩方のご尽力で、この2〜3年は2000名を超え



ていかねばならない。そのためには濟々鬘を卒業した若い世代がその一翼を担って、福岡でも大いに活躍してくれることに期待したいということです。私たち福岡同窓会の面々はそんなことを思いながら、若い世代の成長を楽しみにして、同窓会が少しでもお役にたてればと念じつつ、日々楽しく活動に参加しています。

東京同窓会は福岡同窓会の先輩です。今後ともご指導を仰ぎながらしっかりとついていきますので、貴会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。

### 濟々鬘関西の現在(いま) 駒崎伸之(昭和41年卒)



濟々鬘東京同窓会の皆様、こんにちは。濟々鬘関西同窓会の現在の動向等を報告致します。

#### (一)濟々鬘関西の特長と課題

濟々鬘関西地区同窓会の現状を分析すれば、次の様に成ります。

①同一卒業年次単位でのチームワークは

非常に良好です。(各年次単位での忘年会、新年会、ゴルフコンペ、クリスマス会等を実施しています。)  
②大学生を含む中年/若年層の組織化が不足している傾向に有ります。

#### (二)組織活性化委員会の設置(前記②の課題解決の為)

濟々鬘関西地区同窓会の組織(活性化)委員会と広報委員会及び総会実行委員会の三委員会体制(勿論、会計、同窓会事務局等は従来通り。)に拡充/改組しました。

##### ①組織委員会の活動

・濟々鬘関西同窓会奈良ウオークの実施  
二〇一〇年五月二十九日、二上山の麓の古寺、當麻寺(たいまでら)に集合、多数の国宝・重要文化財の拝観(當麻曼陀羅)と源頼朝寄贈の須弥壇や住職の法話の拝聴、特に今回は同窓生の家族にも参加呼びかけを行った。本件は二〇一〇年五月三十日の熊本日日新聞、県人会便りに載りました。

##### ・就職ガイダンス(就活激励会)の開催

大学生を対象とし、二〇一〇年十月九日に大阪市内にて実施、冒頭の全体会議では濟々鬘の歴史の深さ、ネットワークの凄さ



を皆で確認後、この濟々鬘ネットワークを活用し、この空前の就職難時代に遭遇した若い濟々鬘OB・OGをサポートする目的でこの就活激励会を実施しました。この中で住友生命人事部の津田哲平さん(平成九



和歌山大学で講演中の波剛さん  
(本鬘平成20年卒、現在大阪大学4年)  
2010年12月3日わかやま新報切り抜き

年卒)から、就職面接では「自分の言葉で熱意を語る。」事が大事であるとの具体的アドバイスが有りました。全体会合の後、業種単位にて分かれた各テーブルにて業種各論ミーティングが実施され、就職に向けての各先輩方からの真剣なアドバイスが有りました。本件も二〇一〇年十月十一日付熊本日日新聞県人会だより欄に掲載されました。

#### (三)最近のトピックス

①学生運営NPO法人代表渡剛さんの活躍

平成二十年卒、現在大阪大学三年の渡剛さんが一人親の阪大生に奨学金を出し、塾で教えて返済する形式のNPO法人を立ち上げた。尚渡さんの母も本鬘OGです。

②平城遷都一三〇〇年祭への協力



大極殿前にて説明する筆者

奈良在住の駒崎(昭和四十一年卒)が平城宮跡探訪ツアーにて、平城京成立の背景・遣唐使船の目的・被害等に付き、全国から来奈された方々に熱く語りました。

こう書けば濟々鬘関西は濟々鬘の殻に閉じこもっている様に見えるかもしれませんが、さにあらずで

①毎年春・夏の高校野球甲子園出場校応援

昨年夏は九州学院の応援に甲子園三往復特に現在の九学・内村校長は濟々鬘昭和四十二年卒である為、気合が入りました。

②毎年暮の男・女の全国高校駅伝への応援

京都西京極陸上競技場へ行き、競技場前のお好み焼屋へ行き、熊本県代表校の応援を行っています。

③毎年一月・六月の大安寺の癌封じ笹酒祭へのサポーターとしての協力(これは大安寺の河野清晃前貫主(熊本・山鹿出身)が二十年強奈良熊本県人会会長を担当されていた為)

これらの他、関西熊本県人会や熊本出身者の親睦団体もつこす会/他校同窓会等にも必ず出席しています。

以上濟々鬘関西の現状に付き、御報告致しましたが、濟々鬘の漢文で学んだ「小人、閑居して不善を成す。」の言葉にあてはまる事にならない様、日々を送っている昭和四十一年濟々鬘卒の駒崎です。





# 第2回OB会ゴルフコンペ大会

H 22年7月4日(日)梅雨のつかの間の曇り、前日まで雨模様で当日も雨の心配があったが、運良く雨があがった中でのゴルフとなった。関東地区のOBが成田の総成カントリーに総勢56名が参加することになった。上から29年卒、下は59年卒と初めて会う人ばかりで、こんなに多くの多士が集まり、同時に熊本を離れたOBが関東の地でゴルフコンペで再会することに大いに感動した。皆さんとは初対面ではあるが、熊本弁が行き交うと熊本に帰ってきたような雰囲気になった。

7時30分のスタートまでには全員が集まり、3コースに分かれてスタートすることになった。コース別にスタート前記念写真を撮った(写真参照)。

その後、コース別にスタートし曇りの天気であつたが、全員怪我もなくホールアウトすることが出来た。

ラウンド後、表彰式があり(写真参照)、学年別では32年卒組が優勝となった。そのスコアを見



て驚いた!(スコア参照)年齢に違わず(失礼です)が、脅威的なスコアであつた。また、個人別でもちろん近藤さんは一位であつた。とにかく皆さんのうまさに圧倒されたコンペであつた。また、このコンペの上位者は10月の熊高との定期戦に参加することとなった。

(41年卒岡野記)



## 第3回済々黌東京同窓会学年対抗戦

2010.07.04 (日) 14:17:16 P-1

競技方法: 新ペリア(12) 打数制限: PAR×2  
HDCP上限: 男: 99.90 女: 99.90  
HDCP下限: 男: 0.00 女: 0.00

順位	団体名	競技者名	GROSS	HDCP	NET	順位	団体名	競技者名	GROSS	HDCP	NET
優勝 S32	240.0	近藤 傳二	78	2.4	75.6	14位 S54	308.0	末展 洋	95	18.0	78.0
準優勝 S42	248.0	西島 謙一	75	2.4	75.6	15位 S56	322.0	舞嶋 良司	104	28.8	75.2
3位 S35	259.0	本加藤 和憲	84	9.6	74.4	16位 S33B	327.0	道上 順一	108	31.2	76.8
4位 S38	275.0	大北 文生	79	2.4	76.6	17位 混成C	346.0	中山 雅雄	107	26.4	80.6
5位 S40	275.0	田端 安隆	83	9.6	73.4	18位 S52	364.0	永平 久雄	108	28.8	79.2
6位 混成A	288.0	甲斐 博之	86	9.6	76.4			瀬口 文雄	101	25.2	75.8
7位 S34	292.0	佐野 正也	81	6.0	75.0			菅田 弘	111	30.0	81.0
8位 S33	293.0	坂本 龍三	84	10.8	73.2			田中 壮治	115	36.0	79.0
9位 S58	297.0	手嶋 修治	94	16.8	77.2			佐藤 亮一	106	28.8	77.2
10位 S41	305.0	益田 幸文	88	12.0	76.0			河端 敬一	109	31.2	77.8
11位 S57	305.0	後藤 好徳	93	19.2	73.8			坂本 究	131	43.2	87.8
12位 混成B	308.0	長岡 信玄	93	19.2	73.8			大村 亮	99	22.8	76.2
13位 S59	308.0	中野 幹夫	94	20.4	73.6			園田 士朗	104	24.0	80.0
		谷 健二	84	10.8	73.2			木庭 民夫	161	55.2	105.8
		木下 成一	100	27.6	72.4						
		堀川 英祐	104	27.6	76.4						
		窪田 進	91	16.8	74.2						
		相馬 武雄	92	15.6	76.4						
		泉 洋介	109	31.2	77.8						
		大澤 紀夫	90	14.4	75.6						
		西田 純一	100	21.6	78.4						
		今泉 宏章	103	25.2	77.8						
		神元 浩行	87	10.8	76.2						
		松原 秀	99	21.6	77.4						
		三池 達郎	111	31.2	79.8						
		岡野 祐治	95	20.4	74.6						
		中村 洋	99	15.6	83.4						
		小笠原 廣治	111	30.0	81.0						
		真原 仁	99	22.8	76.2						
		田中 昭雄	99	19.2	79.8						
		横田 順二	107	28.8	78.2						
		岩下 純	96	16.8	79.2						
		石原 栄雄	99	24.0	75.0						
			111	34.8	76.2						
			82	8.4	73.6						
			99	24.0	75.0						
			125	39.6	85.4						





母鬢を訪ねて 新鬢舎訪問記

林 力(昭和41年卒)



秋晴れの下、昨年10月6日(水曜日)午前、卒業以来44年振りに母校を訪問。予め連絡をとって

た山口教頭先生に本館玄関でお迎え頂いた。訪問目的は、真開現鬢長から「多士東京41号」への寄稿のお願いと落成なったばかりの新本館(管理棟と呼ぶらしい)訪問であった。真新しい応接室で、山口教頭先生へ事前に用意していた10数項目の質問をぶつけてみた。この質問の目的は、「現在の母鬢の様子vs私が在籍していた昭和40年前後の様子」。読者の皆さんにもそれなりに興味深いと思うので主な比較点だけを以下に記します(括弧内が昭和40年頃)。

(1)一学年の生徒数とクラス数・約400人で10クラス(580人で11クラス)(2)男女比率・50:50(男550人位・女35人位)(3)男子の髪型・自由(坊主刈強制)(4)主な通学方法・バス、自転車、バイク可(市電、バス、自転車、なおバイクは不可)(5)校内のIT度・2つのパソコン専用教室に全教職員にパソコン(ゼロ)(6)水泳実技・普通の授業(全員、高さ

こなしていく姿には正直頭が下がった。気になるのは仕事の厳しさと低報酬のため定着率が低いこと。

人の一生の残酷さを見届けて思ったこと、それは自分の近未来の姿。

下通り、上通りを歩けば秋葉原か渋谷と見間違えばかりの若い娘のファッション。熊本はファッションの発信基地だとか? でもなにか違う。なにかしっくりしない。何かオカシイ。吉本興業の芸人が無理して東京弁(共通語?)をしゃべっているような感じ。

戸惑ったこと。弱者(?)優先の熊本の交通法規には本当に困惑する。強者(優先者)は弱者に道を譲るべきだという何かよくわからない文化がある。交差点では青信号は赤信号に對して強者(優先者)だし、直進車は右折車より優先するはず。でも熊本では油断するとすきをつけて弱者優先を主張してくる。狭い道から出てくるときも、鼻をグツと突き出して走行中の優先車の邪魔をする。強者は弱者をちゃんと守るべきだといわんばかりに弱者がハバを利かせる。方向指示器(ウインカー)をぎりぎりまで出してくれない。ウインカーが出ていなくても直進するとは限らない。何を考えているのかわからない。

他車へのサービス精神、思いやりはまるで

3メートルの飛込み台からのジャンプ強制)……。その他、山口先生からの補足説明の中で一つ特筆すべきことは、昨年母校の有史以来初めて、女性の応援団長が生まれたとのこと!! 応接室での会話の後、山口先生に、完成間もない新本館建物の内部施設をご案内頂いた。

鉄筋コンクリート4階建て、延べ床面積2、168㎡の立派な建物。特に印象に残ったのは、エコ対応として太陽光発電システム設置と、1階玄関横に掲げられていた大きな3綱領のタイル製パネル。

約30分の短い訪問の後、山口先生とお別れし、一人で敷地内の一部を一巡。佐々先生、井芹先生の銅像は昔のまま。懐かしかったのは、正門入って左手奥に今でもある旧同心学舎の古い木造家屋。私が一年間総務委員を務めていた頃、この学舎を生徒会室として使わせてもらっていた思い出の建物がそのまま現存。もう一つの思い出は、正門を出て直ぐ右に聳える桜の大木。この木は何かの記念日の折、当時の石坂熊本市長(故人。本鬢の大先輩)と生徒を代表して私と一緒に植樹した苗木が44年後の今では立派に成長していた。更に、校門前スロープを約50メートル下ると、右手に同窓会用に昭和59年に建てられたという3階建ての立派な建物、多士会館があった。事務員の方に断って中を見学、母

ない。(免許証更新所の先生の話では熊本は全国で一歩ウインカーを出すのが遅いそうだ)東京でも交通マナーを確信的に乱すのはワンさといえるけど、熊本の場合は普通の人が平気でやっているところが怖い。でも熊本の人はそれを当然のように受け止めている。なぜって、自分も同じようにやっているから。

そんな熊本でしか通じないヨというような暗黙の勝手なルールがある。(このこ出戻ってきて何を勝手なことなのかとお叱りを受けそう)

郊外の大型ショッピングモール、ファミリールレストラン、焼肉店など流行っている店の多くが他県資本。店員の教育(接客の仕方)も他県資本の店のほうが行き届いていて、東京婦りの人間には心地よい。

熊本の店はとにかく商売つ気がない。サービス精神がない。

地元の商品組合では他県資本や大規模店に對する脅威を声高に叫ぶけれど、もつと自助努力してからでないと説得力がない。既得権だけで商売していきける時代はとくに終わっているのに。かくして熊本流の素っ気無いサービスしか提供できない市中心部はさびれ郊外の大規模店や他県資本の店舗が脅威となっ

校に関するいろいろな資料の展示とともに、ゴルフボール、扇子などの所謂濟々鬢グッズが販売されていた。かようにして短い私のノスタルジックな母鬢訪問は終了、その日の午後のフライトで故郷を後にした。

熊本雑感 熊本へ戻ったもの

有住智博(昭和41年卒)



昭和41年濟々鬢を卒業して四十数年、故郷に戻ったものの昔の熊本とは何かが変わっていた。変わっていたのは何か? 変わったのは故郷か小生か? まあ多くの人にとってはどうでもいいことだけど、半世紀近く経って故郷に戻り住み着いた元東京住人のつぶやきです。

クマモト、洗練さとはかけはなれた響き、左門豊作の田舎の香り、なんとも素朴な懐かしさ。6年前、故郷が自分を待っているはずと錯覚してのUターン。

まずそこで待っていたのは施設で療養中の年老いた父親。介護士の仕事の厳しさを目の当たりにしてただ感謝、感謝の気持ちとなった。肉親に對してもなかなかできないようなことを他人の老人にいやな顔ひとつせずさばき

ていく。熊本はガラパゴス。世の中の進化に乗り遅れてしまった。進化できなかった理由を省みず、進化した文化が入ってくると、侵略されたような脅威を感じている。何とか表面だけでも追いつこうとがんばっているけれど、もっと本質的なところも進化(または世の中を知ること)しないと。

ある県外出身の医者のお話。「熊本では出身大学より出身高校をよく尋ねてくる。というより熊高出身か濟々鬢出身かを確認してくる。熊本は熊高か濟々鬢ですもん。」だそうなの。そんな濟々鬢だけでも最近新聞やTVなどで濟々鬢の名前は予備校のCM以外では殆どお目にかかれない。自分は在鬢時も卒業後もパツとしていた訳ではないので言えた柄ではないけれど、何かさびしい気持ちになってくる。

今年九州新幹線開業。来年(H24年)4月には政令指定都市へ。

これからも発展・進化する都市熊本。いい町です、熊本は。水も空気も土の恵みも申し分ありません。個々の人たちも温かい人ばかりです。

これから老後は故郷でと考えておられる方、帰ってから戸惑わなくていいように、つぶやきが何かの足しになればサイワイ。